

2022年度 がん患者さん看取りの振り返り

今年もまた、この1年間でひさまつクリニックが関わる中、逝去された患者さんの振り返りを行いました。

旅立たれた患者さんは、51名でした。例年より10名ほど多い数字です。

昨年同様、コロナ禍の影響で入院中は面会できないということが多かったため、最後まで在宅療養を希望される方、そのために思い切って治療中止を決めた方が多かった印象です。これから規制緩和の方向に進むことによって、患者さんやご家族の考え方も多様化するものと予測しています。

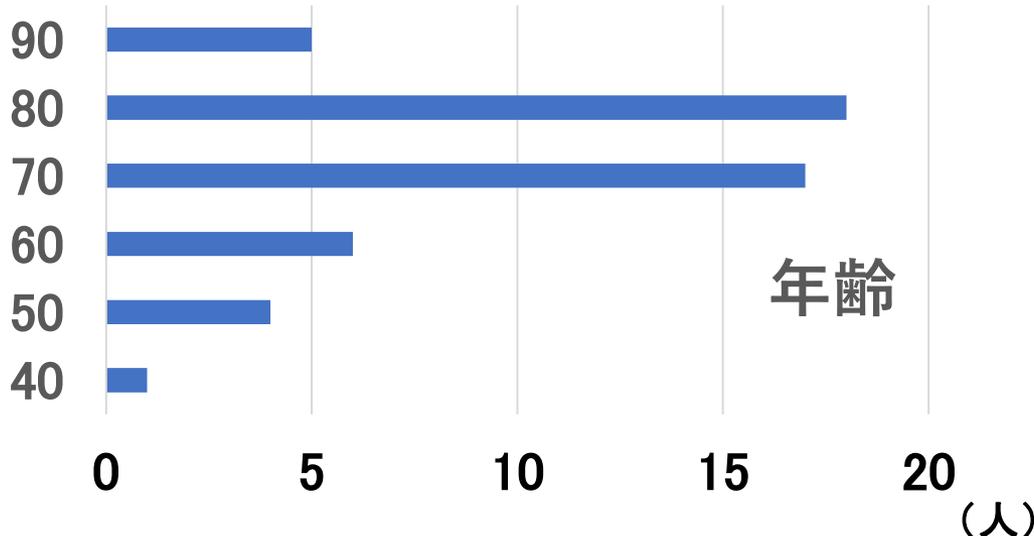
また当クリニックでは、年明けから、非がん疾患患者さんにも対応するため、多職種で緩和ケアチームを立ち上げました。

今後も益々研鑽を積み、日頃の業務や勉強会で、各事業所と質の高い連携を深め、皆さまのお役に立ちたく存じます。何かありましたらどうぞお声がけください。

令和5年6月6日

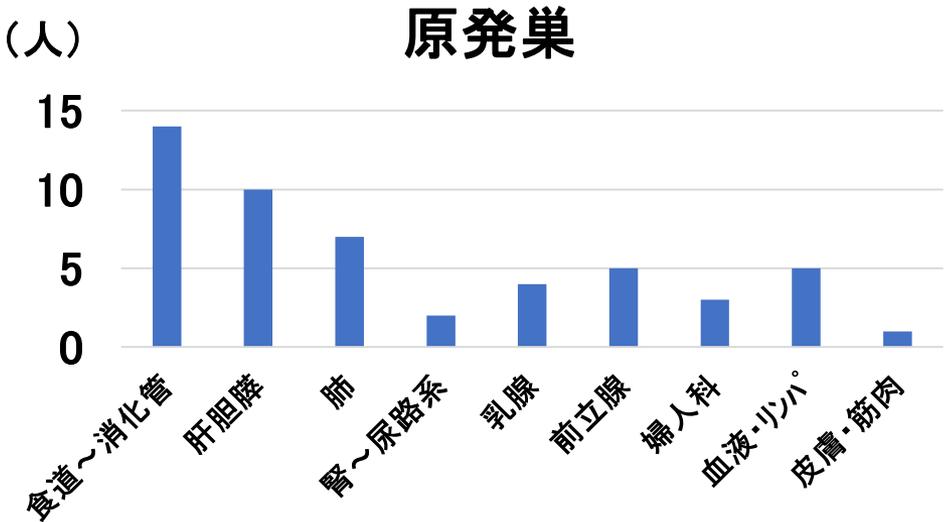
ひさまつクリニック診療部・田中千恵

年齢(代)

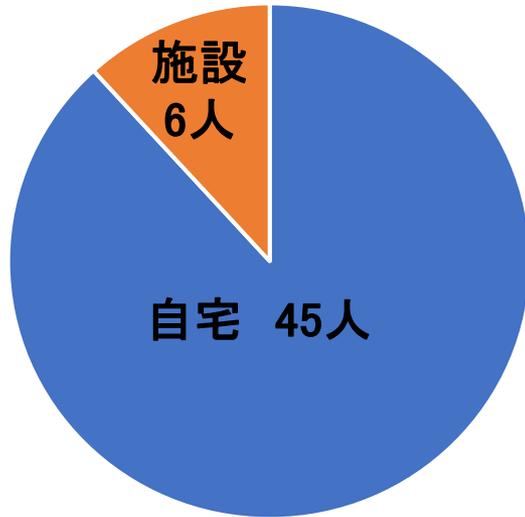


様々な年齢層の患者さんのご依頼をいただいています。それぞれのニーズに合わせて対応しています。

原発巣についても様々です。お一人お一人の患者さんに合った症状緩和治療を行っています。



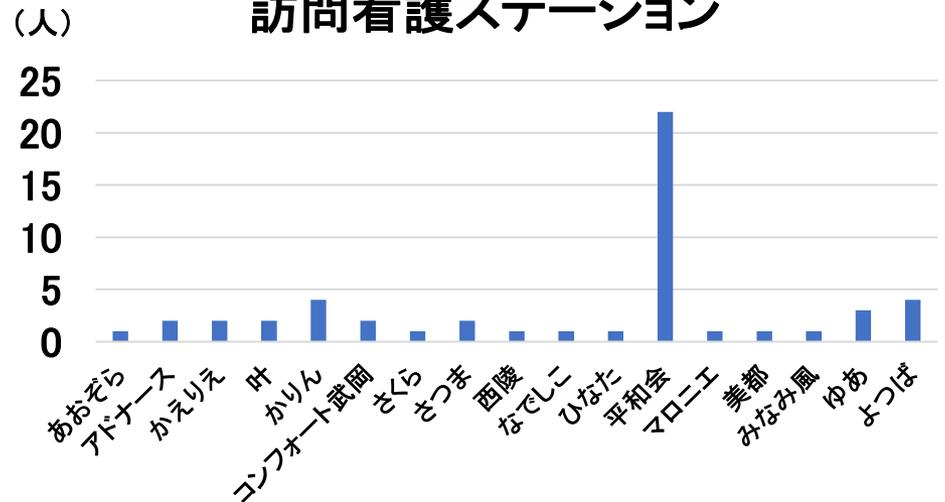
療養の場

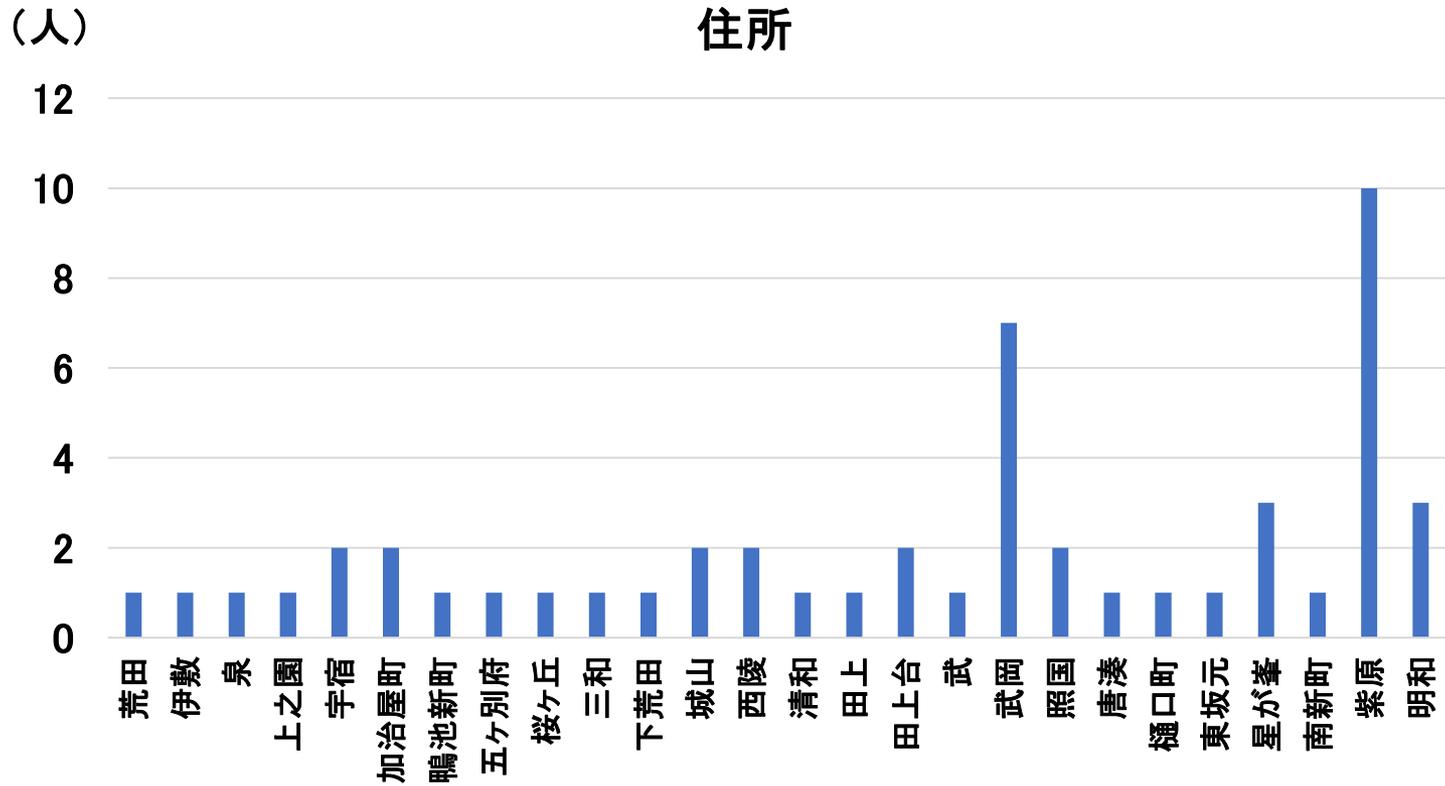


ご自宅で療養されている方、
介入可能な施設で療養されている方の
診察に伺います。

鹿児島市内の様々な
訪問看護ステーションと
連携して診療を行っています。

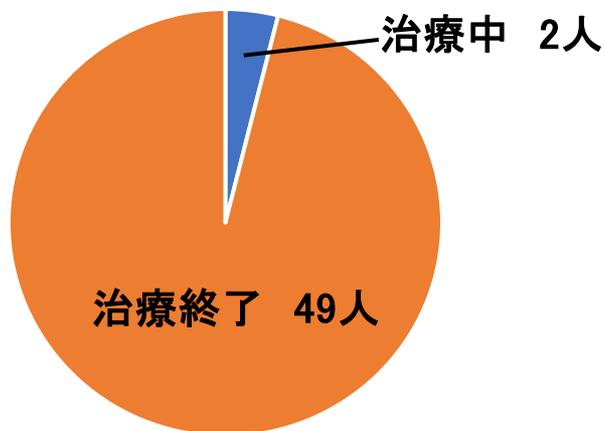
訪問看護ステーション



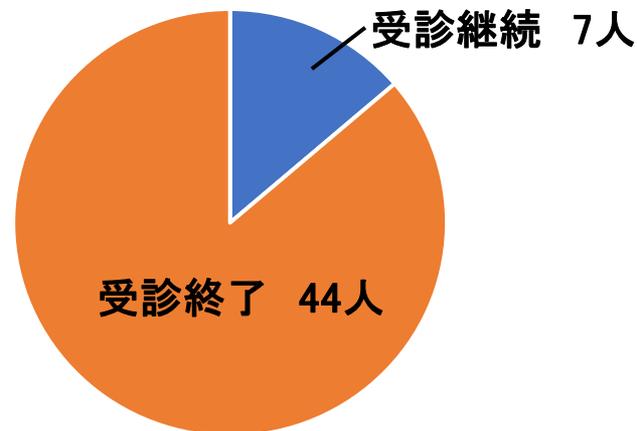


旧喜入町、旧桜島町を除く鹿児島市内で、介入可能か検討したうえで診療開始します。

治療継続の状況

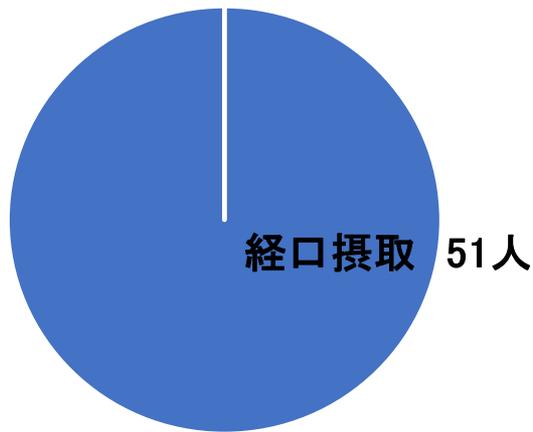


治療病院受診継続の状況



標準的がん治療の適応があり、治療継続される場合、
ご本人・ご家族・治療病院主治医のニーズを確認の上、
治療病院と連携して診療を行う場合もあります。
治療中止していても外来受診希望有れば、
診療情報を提供しつつ連携しています。

経口摂取



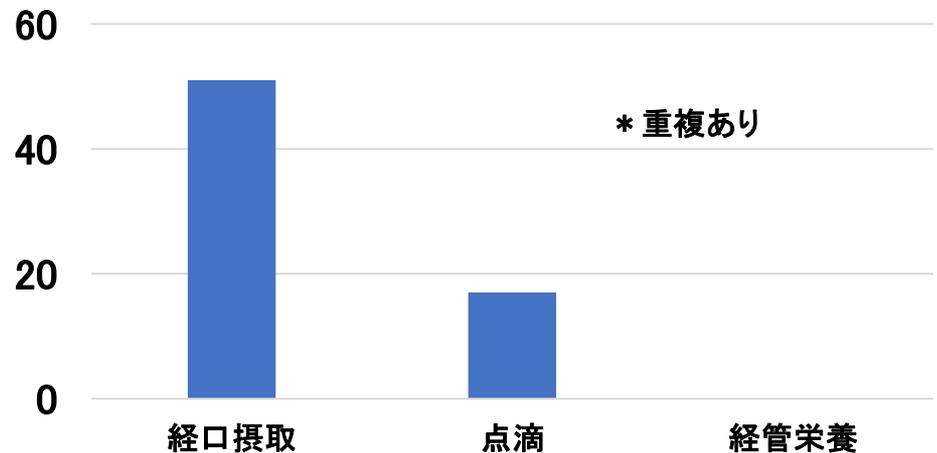
なるべく何らかの形で経口摂取できるように工夫します。

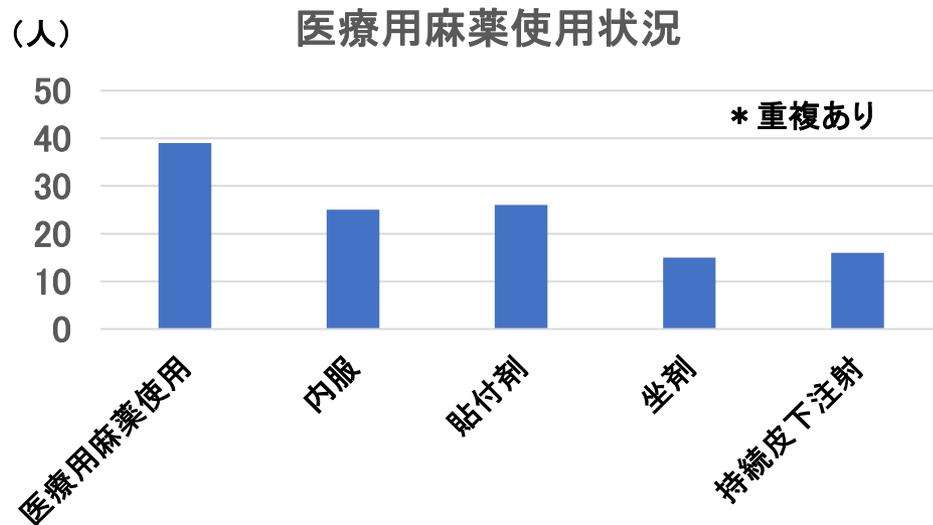
誤嚥のリスクが高い方は、食事の形態の工夫、口腔ケアブラシに水分を含ませ口の中をぬぐうといった方法をとっています。

点滴を行ったほうがよりよく過ごせる場合や、ご本人・ご家族から点滴希望があった場合、量ややり方に気を付けて行います。経管栄養についてもメリット・デメリットを検討しながら行います。

(人)

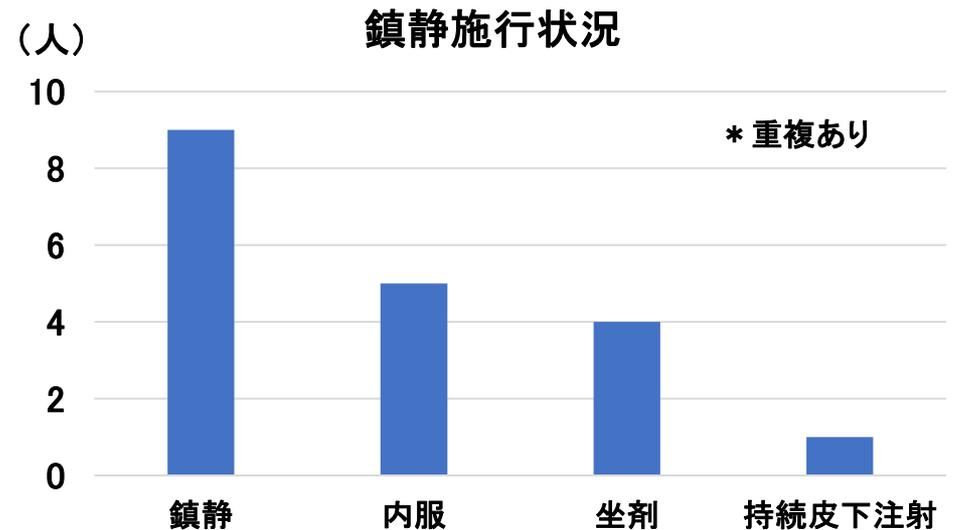
栄養ルート



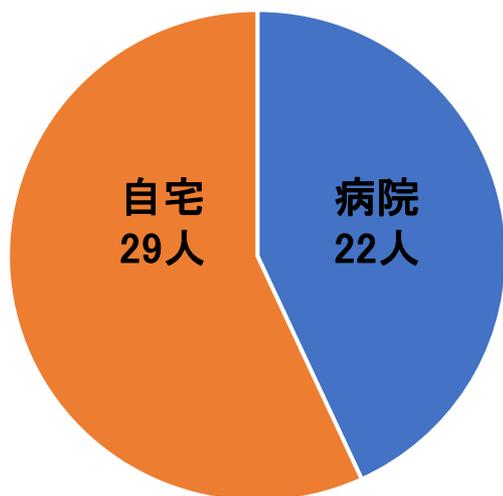


患者さんの状態を拝見し、
患者さん・ご家族と相談しながら
必要に応じて、
医療用麻薬を使用します。

身の置き所ないきつさがあり
眠って過ごされる方が楽な場合も
ご本人・ご家族と相談しながら
お薬を使うことがあります。



看取りの場(2022年度)



最後までご自宅で過ごされるかどうかは、
がんに対する治療を続けたいかどうか、
在宅療養を支えるご家族・介護者の
マンパワーが十分かどうか
影響されることが多いです。

なるべく自宅で過ごしたいという方が多く、
治療・ケア・各種サービスの介入・工夫によって
在宅療養をサポートしています。

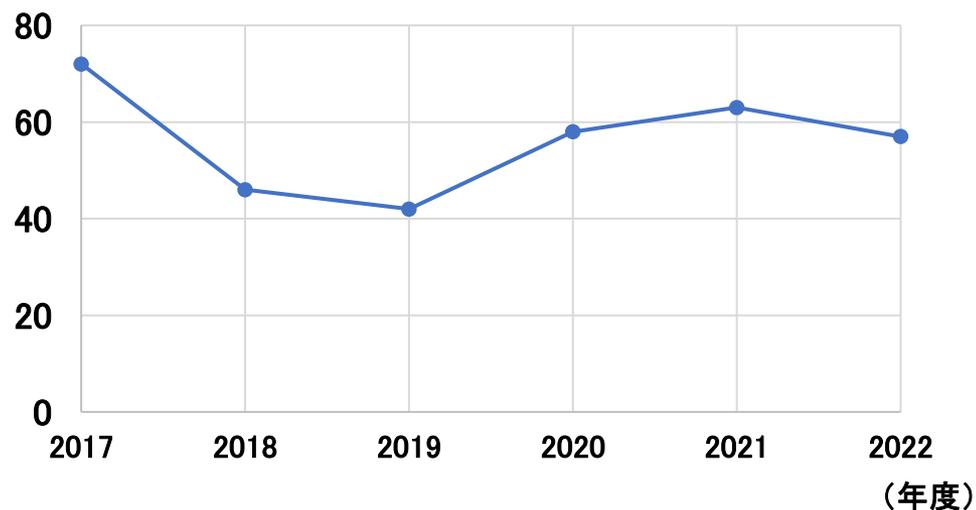
場合によっては入院の方がよりよく過ごせると
判断される場合もあり、

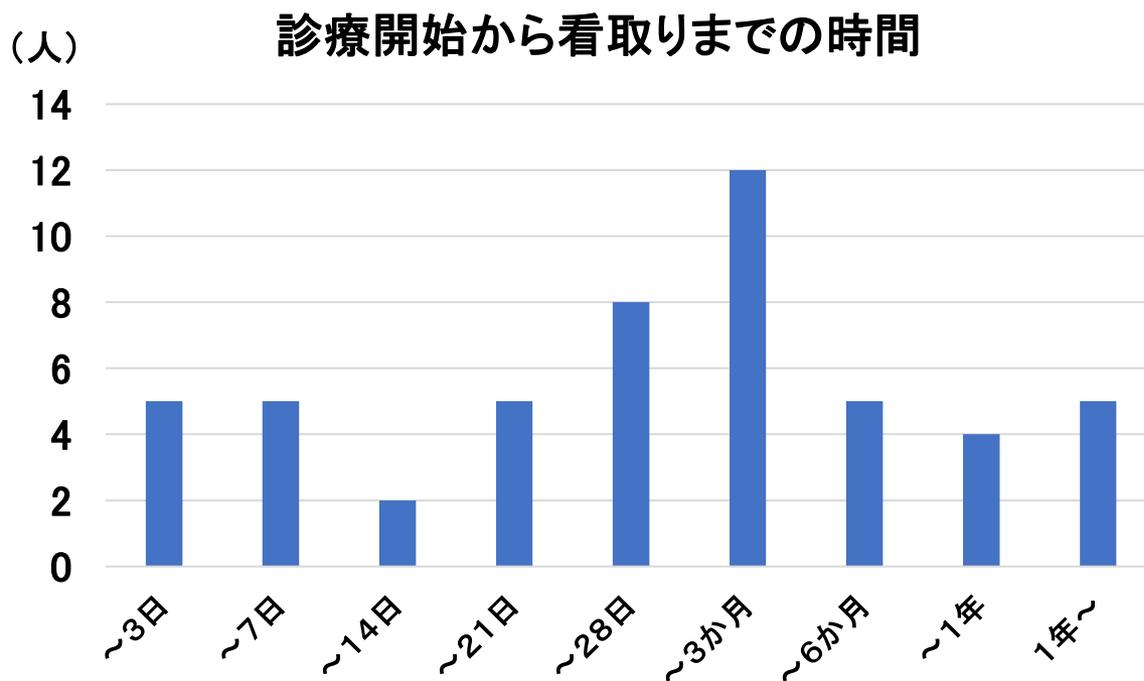
あらかじめ緩和ケア病棟のある病院の
緩和ケア面接を受けていただき、

必要時は（一時的な入院の場合も）スムーズに
入院できるよう連携を図っています

(%)

在宅看取り率





病状進行のスピードは、患者さんによって様々です。

患者さんの状態、患者さんのお気持ちやご家族のお考えを伺いながら対応します。

(1年以上の余命のあった方は、非がん疾患で診療を始め途中でがんが見つかった方々が多いです)